

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ガザ地区南部における女性の貧困削減・生計支援と持続可能な酪農生産のモデル形成
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>(1) 2014 年戦争による被害と復興の遅れ パレスチナ自治区ガザ地区は、2007 年から続くイスラエルの経済封鎖により、産業が乏しく、貧困率が高かったが、2014 年の戦争によって農業生産施設も大きく破壊された。畜産分野だけでも被災額は 1 億 237 万 USD¹に上ると推定される。多くの産業が廃業に追い込まれ、高い失業率、貧困率は深刻な問題となっている。戦争から 3 年弱が経過する現在に至っても、復興は十分に進んでいない。</p> <p>その結果、2017 年第一四半期で、失業率は全体で 41.5%、青年層では 58%となっている。2015 年の 1 人当たり GDP は 1994 年時と比べ 72%縮小しており²、180 万人のガザ地区人口の 80%が、人道支援に頼っている³。</p> <p>(2) 農業生産力の低下と食糧安全保障 2014 年の戦闘から 2 年半経過した 2017 年第一四半期の時点では、全壊の温室の復旧率は 57.6%、果樹は 10.7%、農業用井戸再建は 56.8%、野菜畑は 58.4%、羊や牛の畜産農場は 66%で、農業生産の低下と食糧の不足と価格の高騰という結果をもたらしている⁴。FSS によれば、畜産分野の支援は飼料の配布や冬季用ビニールシートなど小屋の一部資材の配布など限定されたものしか行われておらず、リハビリテーションはほとんど行われていない⁵。UNRWA の食品価格指数によると、ガザ地区における食品価格は 2013 年と比較して 19 ポイント上昇している。ガザ地区では、食料安全保障の欠如は人口の 47%に及び、特に女性世帯では 50%に達している⁶。またガザ地区の人口の半数に、1 つ以上の微量栄養素不足が見られる。</p> <p>(3) 女性の貧困 ガザでは約 1 割の世帯が寡婦やシングルマザーなど女性を稼ぎ手とする世帯であると言われる。女性の貧困は深刻であり、ガザ地区における失業率は、男性では 35.9%であるのに対し、女性は 59.6%となっている⁷。</p> <p>(イ) 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の内容に沿った事業であること 申請事業は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の「目標 2. …食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」、とくに「貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする (2.1)」「生産資源…市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる (2.4)」「生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し…災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱 (レジリエント) な農業を実践する (2.4)」に沿うものである。さらに「目標 5. ジェン</p>

¹ Food Security Sector、国際 NGO による連絡会、以下 FSS。2016.1.27 現在

² Humanitarian Needs Overview 2016

³ Gaza Situation Report 149, 14 June - 21 June 2016

⁴ FSS meeting minutes held as of 2016.1.27

⁵ 2017 年 4 月聞き取り。

⁶ Gaza Situation Report 120 by UNRWA, 26 November, 2015

⁷ Palestinian Central Bureau of Statistics (PCBS)統計 2016 年 7 月 11 日

ダー平等を達成し、すべての女性及び女兒の能力強化を行う」の「女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産…に対するアクセスを与えるための改革に着手する (5. a)」にも沿っている。

(ウ) 外務省の国別開発協力方針 (国別援助方針) 等に沿った事業であること

2012年に策定された対パレスチナ自治区国別援助方針は「パレスチナ経済及び社会の自立化促進による平和構築を目指す」ための重点分野として「和平志向の民意を強化するためにも、人間の安全保障の観点から、上下水、保健、教育などの基礎生活基盤の整備を支援するとともに、難民や女性・子供を含む社会的弱者への支援にも取り組み、民生の安定・向上に努める」と述べ、また「同自治区内の主要産業である農産業は、貧困削減及び食料安全保障の両観点からも、引き続き振興開発が不可欠な分野である」としており、女性の貧困削減・生計支援およびパレスチナ自治区内の産業育成・持続可能な酪農モデルの形成を目的とする申請事業はこの方針に沿っている。

(エ) 申請事業の背景 (事業地、事業内容)

(1) ラファ県東部の貧困

事業対象予定地域としているラファ県東部は伝統的に畜産を生業とするベドウィンの人口が多く、従来酪農が盛んであった。しかし国境に近く、2014年の戦闘で地上侵攻や空爆を受け、被災が大きかった。この地方は人口の44%が社会福祉省に登録されている貧困世帯で、世帯平均月収は250~600ILS⁸程度となっており、新たに家畜を調達することも困難である。ラファ県の社会福祉省によれば、事業対象地として想定している村の一つ、アルショカ村の人口約2,300世帯のうち、貧困世帯として登録されている世帯は1,014世帯(44%)であり、そのうち女性世帯数は442世帯で全世帯数の19%を占める。同様にアルナセル村の人口1,460世帯のうち、貧困世帯は648世帯(44%)、そのうち貧困な女性世帯として登録されている世帯は215世帯で全世帯数の14.7%を占める。なお、パレスチナでは5人世帯の場合、月収入2,293ILS以下は貧困世帯、1,832ILS以下は極度の貧困世帯と定義される⁹。

(2) 酪農生産の減少

多くの家畜が失われた結果、酪農製品の生産量は減少し、イスラエルからの輸入品に頼らざるを得なくなっており、高価格となって貧困層には手が届かない。FAOによれば、2010年から2014年の間にガザ地区の家畜は13%減少し、畜産に生計を頼っている世帯も、22%減少している¹⁰。当該地域の家族では数カ月間乳製品を口にしていない、あるいはUNRWAが配給する粉ミルクに頼っている世帯が多く確認できた。

(3) 不足する家畜飼料

家畜飼料をイスラエル産およびイスラエルを経由した輸入品に依存せざるを得ないことは酪農製品の高価格の要因の一つとなっているうえに、貧困層が酪農に取り組むことを阻んでいる¹¹。家畜の生産コストの7割を飼料代が占めて

⁸ イスラエルシェケル、1 ILS=30.02 円

⁹ パレスチナ統計局(2011)

¹⁰ The Electric Intifada “One in five of Gaza’s herders ceases farming amid Israel’s attacks, siege”, 2015年3月2日。

¹¹ わらや麦の一部はガザでも生産されているが、ほとんどはイスラエルで加工された物、もしくは原材料をイスラエルから輸入してガザで加工している。また飼料用トウモロコシやプロテイン調整飼料はイスラエル産/イスラエル経由の輸入品のみとなっている。

	<p>いるといわれる。輸入品が高価で購入できないため、放牧地の牧草に頼っている農家も多いが、ラファ県東部は水不足が深刻な地域であり、乾燥して牧草が少なくなる夏季には、家畜が栄養不足となって乳が出ず、乳製品は牧草の豊富な冬季のみしか生産できていないという農家もいる。さらにイスラエルが設定した国境沿いの緩衝地帯¹²により、ガザ全体の 35%の農業用地へアクセスができなくなっているが、これには多くの牧草地が含まれている¹³。</p> <p>(4) 食糧不足 ガザ南部のラファ地区の女性世帯は食糧の安全保障に欠き、女性の栄養不良も顕著である。2015 年 2 月の時点で、当該地域の食糧不足の世帯は 76%に上り、ガザ地区で最も食糧不足の世帯率が高くなっている¹⁴。地域の経済的自立を促すために女性たちが、地域の主産業である酪農を開始することを支援する必要がある。</p> <p>(5) 酪農製品の品質問題と市場へのアクセス パレスチナの女性たちは家庭で余った家畜の生乳を加工してチーズやヨーグルトをつくるなどの技術はもっているが、市場向けに生産した経験は乏しいため、品質管理や衛生管理などの知識に乏しく、イスラエル産と競合するだけの品質ができていない。農村の女性世帯の場合には、社会文化的な障壁から単独でマーケットに製品を売りに出ていくことは困難であり、また特に人口の密集する消費地、地域の週市やガザ市内などのマーケットへのアクセスは交通手段などを欠くことから難しい。</p> <p>(6) パルシックの経験・学び 2015 年より小規模な食用動物飼育を通じた女性世帯の生計支援を実施する中で、女性世帯のフードセキュリティを保障し、小規模ながら女性たち自身が自由に使える現金収入を得られ、生計を補助することができた。さらに、事業を実施する中で、対象世帯同士で情報交換をしたり、共同で生産に取り組むことで生産拡大を目指す意欲的な取り組みも見られた。今後は、ガザ全体の農業復興を目指す中で、女性グループ・協同組合を通して生産規模を拡大した形により本格的な産業形成に寄与したい。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>(ア) 概要 ガザ地区南部ラファ地区の農村（アルナセル村及びアルショカ村）において、酪農支援を通して女性たちの生計向上を支援するとともに、女性生産者グループが加工した乳製品を市場・小売店へ販売することで、地域の食料の安定供給に貢献する。家畜の飼料生産を、水の節約できる水耕栽培によって行うことで、酪農の生産コストを削減し、水の不足している地域の酪農産業を支える。政情不安や封鎖により、ガザ経済へのイスラエルの影響が著しい中で、イスラエルからの輸入製品への依存は農家の脆弱性を高めるが、飼料の一部を自分たちで生産することによって地産地消の循環サイクルを形成し、イスラエル市場への依存度を低下させる。ガザ地区は閉鎖性が高いので、持続可能な酪農生産のモデルを形成し、ガザ地区の他の地域へも普及させていくことは重要である。</p> <p>(イ) 対象世帯 ラファ地区アルナセル村及びアルショカ村などの貧困世帯および女性世帯直接裨益者（延べ世帯数）</p>

¹² 2005 年にイスラエルが設定した緩衝地帯は国境より内側に 300m とされるが、実際には 1.5 kmほど内部まで土地へのアクセス規制がなされていたり、国境警備のイスラエルから銃撃を受けるなどリスクが高いエリアとなっている。

¹³ Ministry of Foreign Affairs “Israeli Army Targets Palestinian Agricultural Land Along Gaza Borders”, 2016 年 6 月 20 日

¹⁴ GAZA STRIP Humanitarian Programme Cycle 2015 FSS Strategic Response Plan, 2015.2.3

	初年度	2 年度	3 年度	累計
畜産	120 世帯 (20 グループ)	新規 30 世帯 (5 グループ)		150 世帯 (990 人)
飼料 生産	生産 12 世帯 (パイロット 2 グループ)	新規生産 60 世 帯 (10 グループ)		72 世帯 (475 人)
乳製品 生産	(生乳販売) 120 世帯		(乳製品加工) 30 世帯	150 世帯 (990 人)
計				372 世帯 (2,455 人)

裨益者は以下の選定基準に基づき選定する。

(畜産) 貧困ライン以下の世帯(対象地域は貧困層が 4 割以上を占める)

世帯主に対し、扶養家族が 5 名以上。

女性世帯(男性世帯主が失業している世帯を含む)を優先とする。

社会的脆弱層(子ども、障害や病気を患う人、高齢者)が多い世帯を優先とする。

畜産(羊・ヤギ)の飼育経験がある。

(飼料) 畜産グループの中でも特に活発に協働活動を行うグループを中心に生産グループを組織する

(乳製品) 畜産・飼料生産に参加する女性のうち、乳製品加工を行う女性協働組合への強い参加意思をもつ希望者により組織する。

(ウ) 活動内容

①女性グループを形成し、女性たちが家畜の飼育を開始する。

(1) 裨益者を選定し、女性グループを組織する。

ラファ地区アルナセル及びアルショカ村において、貧困な女性世帯 657 世帯の 23%に相当する 150 世帯を、コミュニティごとに 6 名ごとの 25 つのグループに組織し、共同活動ができるように指導する。

1 年目 120 世帯で各グループ形成(20 グループ、定員 5~6 人/グループ)

2 年目 30 世帯(5 グループ)を新たに組織

(2) 家畜の選定・調達を行う。

女性グループに、参加世帯ごとのキャパシティ・経験と希望に合わせて、羊もしくはヤギ(妊娠している雌 14 頭と雄 1 頭)、飼育に必要な当面の飼料及び必要な薬・栄養剤を 2 回(4 月、7 月)に分けて配布する¹⁵。また配布に当たっては、飼育小屋(羊 15 頭および生まれた仔羊用、40 m²)を設置し、獣医・畜産専門家による家畜の飼育・生産研修を行う。飼育小屋は各女性グループと合意の上で、メンバーの持つ土地の無償提供を受ける。家畜・飼育小屋は女性グループごとの共同管理とする。なお、配布する飼料は最初の仔羊を販売できるようになるまでの期間、4 カ月分を予定しており、4 カ月後以降は仔羊販売、生乳販売で得られた収入および飼料生産で賄う予定である。薬の配布は 1 グループ(15 頭)の 1 年分を配布し、生産が軌道に乗れば女性たち自身で購入する計画である¹⁶。

¹⁵ 配布する家畜の健康状態・妊娠の有無については獣医および畜産専門家が全頭確認する。

¹⁶ 家畜飼育は家畜の死亡リスクを低減するため、2 回に分けて配布する。1 回目の家畜配布では、出産時のリスクの高まる夏季の前に出産を終えるため、妊娠 4 カ月のメス 6 頭とオス 1 頭を 4 月ごろ配布する。その子の出産までに 1 カ月、子羊の育成・販売に 3 カ月程度かかるため、最初の仔羊の販売は 4 カ月後開始を予定している。初回の仔羊販売で得られる収入見積もりは 6 頭 x 200USD = 1,200USD 程度。

	<p>(3) 女性世帯及び女性グループに会計管理指導を行う。 各世帯が生産量や販売管理を行えるよう家計簿の付け方を指導する。また、女性グループのメンバーの中から会計担当者を決めて、会計指導を行う。</p> <p>(4) 畜産専門家は地域の獣医と連携して家畜の飼育・生産・搾乳のモニタリングを継続する。 畜産専門家が羊の飼育指導や農業省への登録手続きや羊の飼育管理と搾乳指導を担当する(巡回指導・モニタリング、週1~2回/グループ)。獣医は、特に罹患や死亡リスクが高い時期、出産時期を中心に羊の病気予防、妊娠有無のチェックおよびワクチン接種、羊の疾病のチェックと対応および指導、妊娠期間の定期健診、羊の種付け補助等を行う(グループ各1~2回/月)。また、期間中は裨益者からの要請に従い、コンサルテーションサービスを提供する。 近隣の地区(ラファア市及びハン・ユニス市)の獣医が対象地域に出張診療しており、巡回診療は可能である(動物病院までは両村から車で15分程度)。また、家畜の登録・ワクチン接種に関しては農業省内の獣医サービスを利用する。</p> <p>(5) 生乳の共同生産・販売をグループとして行う。一部は自家消費とする。 初年度は特に家畜飼育の拡大・生乳の生産を中心としながら、生産できた生乳を女性グループが共同で乳製品工場に卸販売したり、家庭レベルで簡単な乳製品加工を行い地域に販売する。また、搾乳可能期間を延ばすため、生まれた仔の飼育に当たっては粉ミルクを用いた飼育を指導する。なお、生乳は1頭あたり2~3ℓ/日の生産を目標とする。</p> <p>②家畜の飼料の水耕栽培を行い、飼料代の削減を図る。</p> <p>(1) 飼料の水耕栽培地を調査、選定し、水耕栽培用コンテナを設置する¹⁷。 水質、水源、水量、消費量などの調査を行い、アルナセル、アルシヨカ村のうち一つに1か所水耕栽培用の土地を確保し、パイロットケースとして小規模の水耕栽培用コンテナを設置する。</p> <p>(2) 女性グループのメンバーから、飼料生産グループを形成する。 初年度は特に畜産活動が活発な女性グループをパイロットケースとして飼料生産に取り組む。二年次に飼料生産グループを拡張し、水耕栽培用コンテナを計11基設置する。水耕栽培用コンテナは1~2グループでの所有・使用とする。</p> <p>(3) 対象者に研修及びOJT形式での水耕栽培の技術指導を行う。 水耕栽培専門家による水耕栽培に必要な基礎知識の研修を行うとともに、栽培開始後も農業専門家が水耕栽培コンテナを巡回訪問し、OJT形式で技術指導を行う。</p> <p>(4) 女性たちの生産グループによる飼料生産を行う。 技術指導を受けた女性たちにより、大麦の水耕栽培を行う。女性たちの管理のもと、開始初期はフルタイムの作業員を雇用し、継続的に栽培を行う¹⁸。なお、ガザの不安定な電力供給事情を鑑み¹⁹、コンテナ内の空調・温度管理に必要な電力は、太陽光発電パネルを設置してまかなう。</p> <p>(5) 飼料を女性グループのメンバーに分配する。 水耕栽培の飼料を栽培活動の参加率に応じて分配利用し、家畜生産のコストを削減する。また、飼料が余った場合は、飼料を追加で必要とする裨益世帯や周</p>
--	--

¹⁷ 農業専門家が、飼料生産指導(巡回指導)、飼料生産に必要な機材一式の調達補助(設計、品質管理等)、飼料生産研修提供等を行う。

¹⁸ 開始初期は、継続的かつ正確な温度・湿度管理が重要であることからフルタイムの技術作業員が水耕栽培ユニット管理作業を行ないつつ、女性たちへの技術移転を補助する。

¹⁹ 6時間供給、6時間停電もしくは8時間供給、8時間停電のサイクルで供給と停電が繰り返しており、電力供給スケジュールも不定となっている。

辺の酪農家への販売を行い、売り上げを拡大させるとともに、地域の家畜生産に貢献する。販売による利益は次年度飼料生産に向けてプールする。生産された飼料はサンプル検査を実施し、品質を確認するとともに販売時には品質保証として明示する。

③酪農の生乳からチーズ、ヨーグルトなどの乳製品を生産し、販売する。

(1) 女性グループや地域で現在職を失った畜産経験者の中からチーズ等の乳製品生産作業に従事する希望者 25～30 名を選ぶ。

両村の女性グループを中心にチーズ等の乳製品加工作業に従事する 25～30 名を選定し、酪農生産を行う女性協働組合を組織する。

(2) 酪農生産に携わるグループの中からリーダー、会計係を選んで研修する。

リーダー、会計係を選んで組織管理及び会計管理研修を行う。

(3) チーズ等乳製品の生産加工機材を調達・設置する。

作業場を借り上げ、チーズ等乳製品の生産加工機材を調達・設置する。生産加工機材は女性協働組合への提供とする。

(4) チーズ等乳製品の加工及び衛生・品質管理研修を行う。

農業省の協力のもと、作業に従事する女性たちを対象に衛生管理・品質管理研修を行う。

(5) チーズの加工生産を行う。

女性グループのメンバーや地域の酪農家より生乳を買い付け、チーズ・ヨーグルトの加工生産を行い、専門家が OJT 形式で品質管理・衛生管理を指導する。また、農業省・保健省の品質及び衛生保証を取得する。

(6) マーケティング研修を行う。

女性グループからマーケティング担当を選び、市場調査を行いつつ、販売の研修を行う。

(7) チーズを地元市場や小売店およびガザ市内で販売する。

3 年間の実施内容を要約すると下記のとおりである。

	実施内容	対象世帯数
1 年次	女性グループの組織化	120 世帯
	羊の供与と飼育訓練	120 世帯
	飼料の水耕栽培資材供与と研修	12 世帯
2 年次	女性グループの拡大	新規 30 世帯
	羊の供与と飼育訓練	新規 30 世帯
	飼料の水耕栽培資材供与と研修	新規 60 世帯
3 年次	羊飼育と飼料水耕栽培の改善	150 世帯
	酪農製品の生産	30 世帯

This project aims to reduce a scale of poverty, to improve the lives of women in southern parts of Gaza, to stabilize food supplies, and to establish a model of sustainable dairy farming under difficult conditions of Gaza by following steps: (1) Form women's groups to raise goats and sheep collectively, (2) Promote hydroponic culture with livestock feeding, and, (3) Introduce dairy production such as cheese.

(4) 持続
発展性

■ 女性グループが自立的に運営管理できるようワークシフトの管理、会計管理、マーケティングなどを含めた指導を行い、地域内で調達できる飼料を使用することで、酪農生産の地域内循環・持続可能性を保証する。

- 女性グループの中の酪農グループ、飼料生産グループ、乳製品生産グループがそれぞれの生産と販売を軌道に載せることで相対的に自立的に運営される。

各年次に次に示す収益を想定する。

表1 畜産グループの収益予想 (親羊15頭で母羊を拡大しない場合)

単位 US ドル

	1年目	2年目	3年目	
コスト合計	1,990	4,070	4,050	4,247
飼料代	1,458	2,500	2,500	2,500
薬代	0	960	948	960
飼料生産水代	4	5	5	5
大麦種代	73	73	73	73
粉ミルク代	456	533	533	710
売上計	6,111	6,156	8,578	6,156
生乳販売	2,311	3,556	3,378	3,556
仔羊販売	3,800	2,600	5,200	2,600
収益	4,121	2,086	4,520	1,909

注1 羊配布より1年ごとの計算

注2 収益は羊の種付け・出産回数のずれにより年により上下する

- また事業の実施に当たって、家畜の登録及びワクチン接種のサービスについては農業省の特に獣医部門と密な協力関係を持つ。乳製品加工の品質・衛生管理に当たっては農業省及び保健省の協力を得て、事業実施後も両省の継続的なモニタリングおよび協力を得られるようにする。
- なお申請団体も事業終了後も、女性グループの活動をフォローアップする。

(5) 期待される成果と成果を測る指標

(ア) 女性グループを形成し、女性たちが家畜の飼育を開始する。

【成果を測る指標：女性たちの収入】

事業開始前：酪農による収入はなし、UNRWA・社会福祉省等の支援に依存。

事業実施後：女性世帯の酪農による収入が147 USD/月になる²⁰。

生乳1リットル=2.5ILSとして計算するとグループあたり²¹約4,978 USD/年

生まれた羊28頭分の販売価格²² 200 USD x 28 = 5,600 USD/年

合計 10,578 USDとして月額882 USD、1世帯当たり147USD/月

【指標の確認方法】

女性たちの生産記録および家計簿（販売記録）、モニタリング

(イ) 家畜の飼料の水耕栽培を行なうことで、飼料代の削減を図り、併せて供給の将来的持続性が不安定なイスラエル産などの輸入飼料への依存率が下がる。

²⁰ 1米ドル=115.86円、1ILS=30.02円、1米ドル=3.86ILSとして計算

²¹ 羊一頭当たりの一日の生乳生産量は30。また妊娠中の羊は3か月間生乳を生産し、年2回出産できるため、30×2.5ILS×14頭×30.5日×6か月=19,215ILS≒4,978USD/グループ。

²² 年2回妊娠出産可能であるため、年間羊雌1頭あたり、2頭/年出産する計算となる。雄1頭、雌14頭/グループ配布するため、2×14=28頭/年。生後3か月程度の羊の取引価格は約200USD/頭。計5,600USD/年。生乳生産と合わせて、グループあたりの月収は約882USD/月となる。1グループの定員6名であることから、1世帯当たり147USD/月となる。

	<p>【成果を測る指標 1 : 飼料代】 事業実施前 羊およびヤギ 1 頭当たりの飼料を市場で購入した場合 : 月額 11.3 ドルの支出 事業実施後 事業実施前と比べ、飼料代が 20%削減される²³²⁴。</p> <p>【指標の確認方法】 女性グループの飼料生産・販売記録及び各女性世帯の家計簿、モニタリング</p> <p>(ウ) 家畜の生乳からチーズなどの乳製品を生産し、販売する。</p> <p>【成果を測る指標 : 女性グループの販売売上額】 事業実施後 : 女性グループが安定的に 200 kg/日のチーズを市場に提供できるようになる。</p> <p>【指標の確認方法】 女性グループの生産・販売記録及び会計簿、モニタリング</p>
--	---

²³ 配布した羊の数(15 頭)あたりの水耕栽培開始後の羊・飼料生産維持コストを計算すると、約 300USD/月なので、生産が軌道に乗れば、飼料代等維持費の負担は売り上げの中から女性たちで賄える。

²⁴ 事業実施前は羊 1 頭当たり 2NIS/日の飼料(グリーンフォダー)負担。2NIS×30.5 日=61NIS/月=1,926 円/頭となる。水耕栽培用コンテナの維持費は、水 1m³/月×2.5NIS=2.5NIS/月=79 円と苗代(30 頭分)145USD/月=16,168 円、計 16,247 円となり、水耕栽培ユニット 1 つで 30~50 頭の羊の飼料を生産することから、1 頭当たり直すと約 522 円となる。なお、グリーンフォダーは飼料の 35%を占めることから最大で全体の 25%程度のコスト削減が見込める。